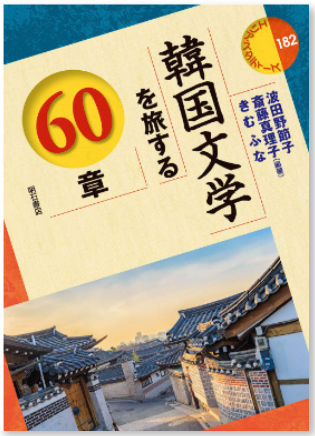
Book List ～沖芸の先生による、今読むべきこの15冊～ Vol.12

現代韓国を知るための文学と映像と文化の15冊

選者：金 惠信（きむ へしん）

沖縄県立芸術美術工芸学部芸術学専攻　教授
東洋美術史、アジアの近現代美術、ジェンダーと視覚表象
梨花女子大学大学院（美術史学科）、学習院大学哲学博士（美術史）

県立芸大の先生が選ぶおすすめ本！



『韓国文学を旅する60章（エリア・スタディーズ 182）』

波田野 節子［ほか］／編著　明石書店　2020年　/929.1/Ka56/

映画のワンシーン、小説の中の文章ひとつで、行ったことがなくても背景となった街や場所に憧れを抱き、時には生きる中で覚える怒りや問題意識を呼び起こす場として心に刻むことはよくある。その多くは西欧世界のどこかであることが多いが、近くの異国同士である韓国と日本はどうだろうか。ハングル文字で書かれた古典文学から植民地支配下と戦争の近代期に生まれた詩から現代フェミニズム小説までの文学作品と作家について韓国の歴史と社会を映す場としての地域をキーワードに述べた解説書。60 に及ぶ章のタイトル全てに朝鮮半島の地域や地名が入っている。向かう旅先がどこであろうと、韓国の隣に生きるあなたの近場への旅ガイドになる一冊である。

『韓国映画 100 選』

韓国映像資料院編、桑畑優香編　クオン　2019年　/778.221/D21/

韓国映像資料院（KOFA,Korean Film Archive）が、韓国の近現代史が辿れる映画 101 本を選び、映画研究者、評論家、映画専門誌記者などの批評文を加えて紹介している。日本による植民地統治期に始まり、独立後の混乱、朝鮮戦争 Korean War、南北分断、軍事独裁政権の時代、民主化運動、IT 化へと続く韓国の近現代を映す韓国映画は、日本を含む北東アジアの近現代の視覚表象でもある。日本語版には非英語圏映画では初めてアカデミ監督賞と作品賞を受賞したポン・ジュノン監督の『パラサイト 半地下の家族』など、原書が刊行された後制作された五作品が加わっている。選ぶのは難しいけど、ぜひ見ていただきたい映画は『JSA』と『殺人の追憶』。重く悲しい物語の中に深い笑いもあり、映像も秀逸である。

『朝鮮時代の女性の歴史―家父長的規範と女性の一生』

奎章閣韓国学研究院（編集）、小幡倫裕（翻訳）
明石書店　2015年　/367.221/SO59/

朝鮮王朝実録、儀軌、古地図、古文書などの記録文化財を所蔵し、それらをもとにする研究の拠点でもある、ソウル大学奎章閣（キュジャンカク）韓国学研究院の編著。前身の奎章閣は 1776 年に創立された朝鮮王朝（1392～1910）の王室図書館。歴史学、文学、女性学の研究者たちが、男性中心の家父長の王朝社会を生きた女性の一生を、労働、教育、芸術、信仰、遊び、恋愛、家族などをテーマに書いている。ふんだんに使っている絵画や古文書などのイメージが朝鮮王朝の女たちの姿をほどよく可視化してくれる。「閨中を支配する唯一の文字―翻訳小説からゲームブックまで、女性の文字生活とハングル」、「画家と賢母、その不都合な同居―「申師任堂」はどのように作られたか」など。

公立大学法人
沖縄県立芸術大学
OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

『韓国・フェミニズム・日本』
斎藤 真理子／責任編集

河出書房新社　2019 年

「韓国・フェミニズム・日本」を特集に組んだ雑誌「文芸」2019年秋号は創刊以来 86年ぶりに 3 刷になり話題を呼んだ。その特集内容に斎藤真理子の巻頭言「未来から見られている」を筆頭に注目される作家の書き下ろし作品などを加えた完全版。

/929.1/Sa25/

『ギリシャ語の時間（韓国文学のオクリモノ）』
ハン ガン／著、斎藤真理子／訳

晶文社　2017 年

アジア人で初めて英国ブッカー国際賞を受賞した女性作家ハン・ガンがスランプの時期に書いたという小説。言葉を失った女性が視力を失っていく男性から古典ギリシャ語を習う。何かを失いながら生きる存在としての人間の姿を精緻な言語で編むような文章で描く。

/929.13/H27/

『鳥のおくりもの（アジア文学館）』
ウン ヒギョン／著、橋本 智保 ／訳

段々社　2019 年

1969年の韓国、地方の小さな町を舞台に、作家は自分を 30代半ば過ぎの ‘見る私’ と 12 歳の ‘見せる私’ ジニに分け、一人になったり離れて別人になったりしながら周りに鋭い目を向ける。1995年初版が刊行され2022年に 100 刷になった超ロングセラー。

/929.13/U75/

『外は夏（となりの国のものがたり3）』
キム エラン／著、古川 綾子 ／訳

亜紀書房　2019 年

身近い存在や居場所を失う経験に遭遇した人々の話。夫を亡くしコットランド旅に出た女性が旅先で皮膚病に苦しむ。Siri に人は死んだらどこへ行く？と聞き、どこへ行きたいのですかという答えに初めて笑う。喪失を抱え、慰めを求め続ける普通の人々の声の記録。

/929.13/Ki38/

『フィフティ・ピープル（となりの国のものがたり1）』
チョン セラン／著、斎藤 真理子 ／訳

亜紀書房　2018 年

仕事、結婚、血縁でつながっている人もいればすれ違うだけの人もいる。医者、看護師、職員、患者と保護者、交通事故や殺人の被害者・・・病院を主な背景とする 50 名の物語が少しずつだけつながる共同体の営み。その底辺には重く暗い社会問題が横たわっている。

/929.13/C53/

『アーモンド』
ソン ウォンピョン／著、矢島 暁子／訳

祥伝社　2019 年

16才の少年ユンジェはアーモンド（扁桃体）が小さく特に怒りや恐怖を感じない失感情症（アレキシサイミア）をもつ。彼の前に不遇な環境で育ち、溢れる怒りを抱くゴニが現れる。二人の（無）感情の奇妙な交流が顔の表情のように迫ってくる小説。

/929.13/So41/

『わたしたちが光の速さで進めないなら』
キム チョヨプ／著

早川書房　2020 年

年老いた女性科学者アンナが自分が開発した方法では行けなくなった家族のいる星へ向かうため宇宙ステーションで待ち続ける表題作を含む「巡礼者たちはなぜ帰らない」、「共生仮説」などの七つの（フェミ）SF 短編集。生化学修士号をもつ作家のことば、「SF は世界と構造への果敢な問いかけができるジャンル」にあなたは共感するだろうか。

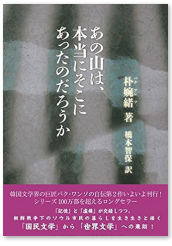
/929.13/Ki38/

『僕の狂ったフェミ彼女』
ミン ジヒョン／著、加藤 慧／訳

イースト・プレス　2022 年

大企業で働く「僕」スンジュンはフェミニストになった初恋の彼女と再会。フェミニズムイシューに実感と関心が持てはい、巷の大多数の普通の男性の恋愛を痛快なブラックコメディータッチで描写し、反響を呼んだ作品。

/929.13/Mi35/



『あの山は、本当にそこにあったのだろうか』
朴 婉緒／著、橋本 智保／訳

かんよう出版　2017 年

初めて彼女の作品を読んだ時、心身にまとわりつくような文章の感触が衝撃だった。現代韓国文学最高の作家の一人朴婉緒の自伝的作品。ソウル大学生の「私」は朝鮮戦争勃発後、家族の生計のため学業を辞める。ご飯は食べていけるかと今いるのは敵と味方どちら側の地なのかで、より切実な問いを探らないといけない現実があった。

/929.13/P16/

『広場（CUON 韓国文学の名作 001）』
崔 仁勲／原名 著、吉川 凪／訳

クオン　2019 年

ここからの三冊は男性作家の小説。朝鮮戦争停戦後、南も北も拒み第三国を選んだ青年李明俊の葛藤の旅路を描く。’広場’ と ’密室’ の喩えを用いた描写などで、朝鮮半島の南北分断をテーマとした中で最も知的で文学性が高いという評価を受ける作品。

/929.13/Sa17/1

『うわさの壁（CUON 韓国文学の名作 003）』
李 清俊／著、吉川 凪／訳

クオン　2020 年

雑誌編集長の「私」は編集会議で抱いた消せない懐疑心の理由がつかめずもやもやしていたところ、偶然出会った精神疾患を持つ小説家の苦しみの原因を突き止めようとする。そして彼の三本の小説から、朝鮮戦争時の記憶がうかびあがる。得体のしれない不安の根源となる ‘壁’ とは何か。

/929.13/I11/

『他人の部屋（韓国純文学シリーズ 1）』
崔 仁浩／著、井手 俊作／訳

コールサック社　2012 年

崔仁浩は高校２年の時、作家になるための最大の登竜門である日刊紙新春文芸公募に選ばれ、韓国文学の寵児と呼ばれた作家。感覚的な恋愛から東アジアの古代史テーマの重厚な歴史、鋭く暖かいユーモアに満ちた家族など、テーマの幅の広さは群を抜く。この作品では韓国社会を象徴するアパートを部屋の概念で捉え、大都会ソウルの変化を「ソウルの感覚」（作家のことば）で書いている。

/929.13/C42/